

平成 30 年 7 月 23 日  
株式会社みなと銀行  
株式会社日本政策金融公庫神戸支店

## 環境制御型ハウス導入と 6 次産業化に協調融資 みなと銀行と日本公庫 ～事業性を評価する審査スキームを活用～

みなと銀行と日本政策金融公庫（略称：日本公庫）神戸支店農林水産事業は、株式会社淡路の島菜園（兵庫県淡路市、大森一輝代表取締役）に対し、県内初となる事業性評価融資による協調融資を行いましたのでお知らせします。

### 《ポイント》

#### ○トマトの生産から新たな経営展開を計画

株式会社淡路の島菜園は、兵庫県淡路市において中玉トマトやイチゴの生産を行っています。平成 26 年の設立後、順調に生産を拡大してきましたが、このたび、①ITにより蓄積した栽培技術を生かしたスペイン式的环境制御型ハウスの導入と、②淡路島という立地を生かした観光農園とレストラン事業の開始という、攻めの経営展開を計画しました。

#### ○ みなと銀行と日本公庫が協調して支援

みなと銀行及び日本公庫は、日本公庫の「事業性評価融資」という審査スキームを活用し、同社の栽培技術の高さや優秀なスタッフ、大森代表の経営者能力や経営戦略を高く評価しました。これに基づき、環境制御型ハウスや加工販売施設の整備に必要な設備資金 総事業費 2 億 4,000 万円 のうち、日本公庫が 1 億 2,000 万円を融資しました。また、本事業の立ち上げに必要な運転資金としてみなと銀行が 1 億 1,000 万円を融資し、協調して支援いたしました。

#### ○ 国家戦略特区の特例を利用

また、今回のレストラン事業は、関西圏の国家戦略特区の計画として認定されており、使途が制限されている農用地域内において農家レストラン設置の特例を利用するものです。農業生産の現場により近い場所で 6 次産業化を進めることにより、消費者に魅力的な農業のあり方を発信していくことを目指しています。レストランは、来年 3 月頃オープン予定です。

今後とも、みなと銀行と日本公庫は農業分野に関わる事業者等への支援に連携して取り組み、地域経済の活性化に貢献してまいります。

<企業概要ならびに事業概要>

企業名	株式会社淡路の島菜園 代表取締役 大森 一輝
所在地	兵庫県淡路市
<b>【事業の概要】</b> <ul style="list-style-type: none"><li>・株式会社淡路の島菜園は、淡路島に移住して農業を営んでいた大森代表が平成 21 年に設立した法人で、中玉トマト、ミニトマト、イチゴの生産に取り組んでいます。</li><li>・生産は順調に拡大していましたが、トマトの生産だけでは他産地との価格競争に勝てないと考え、ITにより蓄積した栽培技術を生かしたスペイン式的环境制御型ハウスの導入と、淡路島という立地を生かした観光農園とレストラン事業への参入を計画しました。トマトハウスについては平成 30 年夏頃、観光農園については平成 30 年冬頃、レストランについては平成 31 年春頃より、順次稼働を予定しています。</li><li>・みなと銀行と日本公庫は、大森代表のリーダーシップなどの経営者能力やトマトを安定的に高単収で生産できる技術力、優秀なスタッフ、長期的な経営戦略等を高く評価し、日本公庫の「事業性評価融資」の審査スキームを活用し支援いたしました。</li><li>・具体的には、日本公庫は環境制御型ハウスや加工販売施設の整備に必要な設備資金を融資し、みなと銀行は本事業に必要な運転資金を融資することで、同社の先進的な取組みを支援することといたしました。</li></ul>	

<事業性評価について>

事業性評価とは、金融機関が、現時点での財務データや保証・担保にとらわれず、企業訪問や経営相談などを通じて情報を収集し、事業者の事業の内容や成長可能性などを適切に評価するものです。日本公庫は新たな融資スキームを構築し、同評価にもとづく融資や助言を行うことで、地域産業のさらなる成長支援に取り組んでいます。

またみなと銀行においても、平成 28 年 10 月に本部内に事業性評価室を設置し、営業店との協働による取引先の事業内容や成長可能性の適切な評価を行うとともに、評価に基づく融資や本業支援に繋がる関係部との連携に取り組むことで、取引先の生産性向上・経営改善支援等を強化しています。

以 上